

ラニ・ポカリ

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダープ ナラエン

父の日、母の日を祝う国・地域は多いと思うが、ネパールのような弟の日がある国はそう多くはないと思う。毎年9月末に行われる5日間のティハール祭の最終日に祝うこの弟の日の祭りはバイティカ(Bhaitika)と呼ばれ、家族の絆を深める大事な行事となっています。

この日、カトマンズにあるヒンドゥ寺院“ラニ・ポカリ”が人々に開放されます。年に一度しか入れないため多くの人々が訪れ、兄弟姉妹がいない人のため寺院はティカを授けます。ラニーとはお妃のことで、ポカリは池のことです。即ち、女王の池という意味です。

ネパールは二千年以上前から王国でしたが、2008年に王制が廃止され、ネパール連邦民主共和国となりました。王国だった間の約600年もの長きを支配していたのはマッラ王朝でした。ネパールで現在、世界文化遺産として認められている建造物の多くはこの時代のもです。昔はネパールと呼ばれている国はカトマンズ盆地のことで、今のカトマンズはネパールマンダラと呼ばれる国でした。

1641~1674年在位、マッラ王朝ネパールマンダラ国第九番目のプラターブ・マッラ王の息子チャックラ・ヴァテンドラ・マッラがある日、象に踏まれ突然亡くなる悲しい事故がありました。王妃は息子の死を受け止められず、毎日のように嘆き泣き暮らしていました。王はお妃を慰めるため、息子のための聖地を造ろうと考え、ネパールやインドの51ヶ所の聖地から聖なる水を取り寄せ、人工池に浮かぶ寺院“ラニ・ポカリ”を造りました。昔は王宮から東にあり寂しい場所でした。当時は住民の大半がネワール民族だったので、池は“ヌー・プク”(新しい池)と呼ばれていました。池は長方形180m×140mで、深さ70~140cm程あ

ります。“ラニ・ポカリ”の入口は南にあり、息子たちと象に乗った王の石像と亡くなった息子の石棺があります。寺院への通路は西にあり、池に浮かぶ寺院へは東に向かいます。寺院の四つ角にはヒンドゥの神々の石像が配置されています。バイラブ神、ハリシャンカル神、シャクティ神とタルケソリ神です。

プラターブ・マッラ王の時代、石碑や多くの寺院が造られました。詩人でもあり Bansuri(笛)演奏もする多才な王は、悲しむ王妃のためにガイジャトラ祭を始めたと伝えられています。ハヌマンドカにある15ヶ国語で刻まれた大きな石碑もこの王が造ったとされており、語学に精通していたようです。全部読めると、その下から乳が流れ出るという言い伝えがあります。

現在、“ラニ・ポカリ”はニューロードを東へ進みトゥンディケール広場を右にして300mほど行った所にあります。周辺にはネパールで一番古いダルバール・ハイスクールやネパールの最初の大学トリチャンドラ・キャンパスがあります。隣には古い時計台もあります。この場所は今や町の中心になっていて、バスターミナルもあり、どこへ行くにも便利です。“ラニ・ポカリ”を外から眺めながら散策してみるのも面白いかもしれません。



ラニ・ポカリ(女王の池)